

## ま え が き

この報告書は、令和2年2月1日現在で実施した「2020年農林業センサス」の調査結果のうち、「農林業経営体調査」における山口県内の旧市区町村（1950（昭和25）年2月1日現在の市区町村）別結果をまとめたものです。

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域の土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に実施している調査です。今回は戦後15回目の農業センサス、9回目の林業センサスとして実施されました。

さて、本県は、全般的に山地が多く変化に富んだ気候風土であるため、多種多様な農業が盛んに行われています。また、森林率は7割を超えており、奈良県の東大寺再建時（12世紀末頃）には、県内の木材が利用されるなど、古くから良質な木材が生産されています。

しかし、近年では、人口減少に伴う農林業就業者の減少・高齢化に加え、頻発する自然災害や野生鳥獣による被害、さらには新型コロナウイルス感染症など、本県の農林業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

このような中、本県においては、平成30年度から令和4年度の5年間を計画期間とする県政運営の指針「やまぐち維新プラン」を策定しています。この「維新プラン」に基づき、直面する多くの課題に対応するため、「担い手支援日本一」の更なる強化、農林水産業の成長産業化に向けた生産力の増強、先端・先進技術の研究開発・実用化の推進、「農林業の『知』と『技』の拠点」の形成、生産や地域を支える基盤整備、などを重点施策として、「活力みなぎる山口県」の実現を目指しているところです。

このような状況のもと、本書が本県における農林業の現状把握に資するものとして、また、農林業諸施策をはじめ地域振興に係る基礎資料として各方面で皆様に幅広くご活用いただければ幸いです。

終わりに、2020年農林業センサスの実施にあたり、格別の御理解と御協力をいただきました関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

山口県副知事 平 屋 隆 之